

地区補助金プロジェクト

職業奉仕・社会奉仕委員会 牛島 聡統括委員長

昨年度は地区補助金の申請をしましたが、受付の時点で、この申請書は通らないと指摘されました。というのは、既に千代田区から補助金を受けている事業で、地区補助金は他団体から補助金を受けているとほぼ通らないそうです。結局、申請は取り下げました。今回は1月21日が締め切りですので、案を出して頂ければ申請書の作成は一緒に考えますので、締め切りに間に合わせることが出来ます。

2021-22年度 2580地区の地区目標の一つとして、「新型コロナウイルスで困っている人々を支援しよう」です。補助金もコロナ過での奉仕及び支援を優先します。但し、コロナ関連でなければ通らない訳ではございませんのでコロナに囚われないで意見を出していただければと思います。

コロナ禍の社会奉仕を見つけ出して提案できれば画期的だと思います。コロナというと、医療従事者、生活困窮者、失職者に目が行きがちですが、岡田会員からも話がありましたが地元の方の商店の方が苦しんでいるという状況があります。

昨年はコロナ禍の中、何をしたら分からなかったもので、ほとんどのクラブがフェースシールドやマスクを支援しました。今はマスクはいきわたっていて、使い捨て医療用手袋が不足しています。

クラスターが発生した永寿総合病院は、区民のコロナ感染患者は一人もいませんでしたが、コロナ発生初期に積極的に受け入れたために、対応の仕方がわからなくてクラスターが起きてしまいました。それにより病院関係者が地元の方にバッシングされご苦労されたことがあり、上野RCは永寿総合病院に20万円、東京都新型コロナウイルス感染症対策本部に100万円の支援金を贈りました。

当クラブが支援しているMLTこどもプロジェクトは、学生が中心になって活動していますが、学生は校外の活動を自粛させられているため、心に傷を抱えている子供たちへのフォローが1年近くできていません。

●実施事例

東京紀尾井町RCはNPO法人キッズ未来プロジェクトに登録する貧困母子家庭支援として、お弁当や学用品の配布及び数百万円の支援しました。当クラブも福島へ3年間で400万円ほど支援しています。アイデアによっては可能性があります。那覇南RCは社会福祉協議会や子どもの居場所サポートに弁当を提供し、会員自ら配りました。本来地区補助金はお金だけではなく、参加することに意義があるので、その方法も含めて会員が参加できる支援を選んで頂ければと思います。

●単年度で終わらない継続支援のために

例え今年の申請に間に合わなくても、単年度で終わらない継続支援を考えたらどうでしょうか。例えば、地域医師会や社会福祉協議会と密な連携を取り、話し合うことで課題を見つけていくことが出来ると思います。

また、一般のニコニコだけではなく、新型コロナに特化した、または何かに特化した特別ニコニコがあっても良いと思います。過去に福島の子供たちにバレーボールイベントの支援を致しました。最終年

は、支援金が足りず、特別ニコニコを数名から頂き実施しました。そのような方法もあります。

それから、クラウドファンディングがあります。これはロータリーに合うかどうかはわかりませんが、永寿総合病院の医療従事者は頑張っているのに給料は下がる、ボーバスが支給されないという状況の中、地元の個人病院の経営者が発起人になり、クラウドファンディングを立ち上げました。1週間という早さで第一目標としていた2,000万円を達成、第2目標であった4,000万円も11日目で達成し、約800名のお全職員に1人5万円ずつ手当てとして支給し、残った資金は不足している人件費や感染症対策費として使用されました。意志をもって動けば賛同してくれる人が集まり多額の資金が集まります。

今までは考えた人が主に動いていましたが、ロータリーモーメントということもありますので、参加して実感を共有することが次につながると思います。皆様のご提案をお待ちしております。

中間報告と新運営体制への移行について

木宮 雅徳幹事

高山会員発案のクラブキャッチコピー「千代田から世界に広げよう奉仕の輪」を思い出して頂き、新たな企画を含め今年、来年度とやっていけたらと思います。

今年の2月の地区大会に於いて、石渡会員発案の「ウォーキングクリーンプロジェクト」が意義ある奉仕賞で受賞しました。70クラブ中、たった2クラブの受賞です。これは誇れることだと思います。

コロナ禍でウォーキングクリーンプロジェクトは休止状態ですが、先ほど牛島会員より説明がありました地区補助金を活用した社会奉仕活動をやることを考えてみたらどうでしょうか。文京区高齢者施設でEスポーツ（対戦ゲーム）をやっています。言葉が通じない外国人とゲームを通じて国際交流をすることもできます。Eスポーツというゲーミングソフトウェアを活用して、高齢者、障害者、引きこもりの方を支援することもありかと思いました。

「四つのテスト」

①真実かどうか②みんなに公平か③好意と友情を深めるか④みんなのためになるかどうか
お茶の水の良いところは、バランスが良い、新人が溶け込みやすい、ベテランが優しいクラブだとRLIの研修を受けて感じました。原点に戻り、この四つのテストを特に新人さんに思い出して頂けたらと思います。

山下年度は5つの目標がありました。特に会員増強ですが、これは世界共通の課題です。多分、ロータリーの魅力がなくなっているんじゃないのかなと思いますので、会員増強のためにはクラブの魅力作りが必要です。

当クラブはビジョン委員会を戦略委員会に改名しました。そして、標準的なロータリークラブ委員会組織に移行します。クラブ管理運営、会員増強、公共イメージ、奉仕プロジェクト、ロータリー財団の5つの委員会になります。